

2016



J・A・C

(第 36 号)



平成 28 年 9 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

E-Mail

「山の日」記念県民ハイキング 8月11日(木)

親子で登った伊予ヶ岳

三木雄三

今年から新たに国民の祝日「山の日」となった8月11日、南房総市の伊予ヶ岳(337メートル)で親子県民ハイキングが開かれた。伊予ヶ岳は千葉の山では珍しくとがった岩峰をもち、その姿から房総のmatterホルンとも呼ばれる人気の山。

千葉支部が「山の日」記念イベントの第一弾として企画し、千葉県観光公社内浦山県民の森が共催した。参加者約20人は蝉しぐれの中、森林インストラクターで支部会友の吉田明子さんから南房総固有の植物の説明を受けながら標高差300メートルを無事に登り切った。



(伊予ヶ岳山頂で バンザーイ)



(北峰から望む南峰 特徴的な岩壁だ)

君津市の榎沢正雄さん(79)は「千葉の山は奥が深いからおもしろい」、千葉市の結城美桜ちゃん(9)は「足が痛くなったけど、お父さんと一緒だから楽しい」と話した。

山頂での記念写真では思わず「バンザーイ」の声。対峙する名峰・富山や鋸山、東京湾の絶景に残暑も忘れ、下山後は用意した冷たいスイカに舌鼓。この模様は同夜、千葉テレビで放映された。

参加者：塩塚生二、鈴木操、鈴木美代、竹園清孝、三木雄三、三田博、山口文嗣、山田紀夫、山本哲夫、結城純一・美桜、吉田明子 (敬称略)

南蔵王、清溪小屋で塩澤シェフと

5月28日(土)～29日(日)

高橋琢子

「蔵王」は、四水会で長老の塩澤さんが東北大の清溪小屋でシェフをしたという山談義に大盛り上がりし、「是非塩澤さんの手料理が食べたい！」に素早く反応した企画だった。

晴天に恵まれた5月28日、東北本線白石駅からバスで蔵王エコーラインの刈田峠に向かう。1,580mの峠は、風が気持ち良い。南蔵王への縦走路をハイキング開始。アオモリトドマツの森を抜け稜線に飛び出すと背後には刈田岳と熊野岳が雄大な姿を見せ、見下ろせば山形盆地が。また、遠く盆地の奥には雪を冠った飯豊連峰が目に見え込んできた。足元には高山植物が咲き、たおやかな南蔵王の山々…。杉ヶ峰で豊かな時間を過ごして、いよいよ清溪小屋へ向かう。例年なら雪の上を直接小屋まで行けるそうだが、今年は雪が無く刈田峠へもどることに。

小屋では東北大山岳部2年生部員2名が、すでにストーブに薪を入れ大鍋で水作り。営業小屋しか知らない私は興味津々。塩澤さんはシェフに変身して早速夕食の仕度にとりかかり、現役部員に「ネギは出来上がる少し前に入れるんだよ」と本格的指示を出している。その間、女性二人は日頃の家事から解放され、まったり。小屋内を見回せば、壁には写真や一枚板のスキーが掛り、清溪小屋の歴史と重みを感じる。本日のメニューは、鮭の酒粕汁・焼鳥ごはん・笹かまぼこ。更に山口さんのサブメニューも加わり、大きな食卓もいっぱいになった。まずは、塩澤さんと学生さんに感謝して乾杯！翌29日も好天に恵まれ、塩澤さんの



(表札が長い年月を物語る清溪小屋)

豆乳朝粥を食べて刈田岳めざして早めに出発した。刈田峠から、ジグザグのエコーラインを何度かつつきり山頂へ。頂上から見た「御釜」は、周囲に火山爆発の荒々しい山肌を見せながら、にぶい緑色の水を静かに抱えていた。火山として新しいためにまだ森を形成していない熊野岳・刈田岳の中央蔵王とたおやかな南蔵王のあまりに異なった様相に、改めて自然の力を見る思いがした。

のんびり、ゆったり2日間。塩澤さんはじめ東北大の安さん、四家さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

追伸…実は、小屋泊り2日間に参加したのは、人間9名のほかに親子？のヘビ3匹とネズミ1匹でした。安息の小屋に大勢で押しかけられて驚いたのか、已年の吉永さんに魅かれて出てきたのか、小屋の主と思われました。お邪魔しました。私も已年ですが…。

参加者：塩澤厚、吉永英明、山口文嗣、山崎完治、山本哲夫、廣村恵美子、高橋琢子 (敬称略)

こあぜ
「小疇先生と行く谷川岳氷河地形観察会」報告

6月5日(日)

2016年度自然観察会

鈴木美代

6月5日、10時15分、谷川岳ロープウェイ駅に集合。この朝、千葉は大雨だった由。しかし現地は思った以上の好天で、楽しい山歩きが期待できた。

谷川岳の氷河地形観察は前々から話が出ておりながら、諸般の事情でのびのびになっていたもので、期待もひとしおである。小疇先生とお弟子さんの小久保さんを含め、総勢21名。まずはマチガ沢出合を目指して出発。途中の林道では植物観察。内浦山県民の森職員で森林インストラクターの吉田さんや、同じく会友の鈴木さんは、千葉との植生の違いにいたく感じ入っていた。

各沢の出合まで林道（往時の清水峠越えの道）が通っているので、足元の怪しい人でも問題ない。ただ、雪渓が残っていれば、沢の中までサクサクとたどれるはずだったのが、今年は雪がほとんど残っておらず、奥までは進めなかったのが残念だった。

マチガ沢出合で最初のレクチャー。実際にどの



(一ノ倉沢出合いにて地形観察)

講師： 小疇尚、 助手：小久保祐介、

参加者： 三木雄三、宇津木仁典、山崎完治、山口文嗣、坂上光恵、福井久子、古谷清美、
香高真奈美、佐藤啓之、高橋琢子、湯下正子、吉田明子、鈴木操、能美勝博、
塩塚生二、竹園清孝、新井好夫、北原秀介（群馬支部自然保護委員長）（敬称略）



(一の倉沢奥の雪渓にて)

部分が氷河に削られ、どの部分がモレーンであるか、など、現物に即してご教示いただく。また、対岸の白毛門側は、尾根には針葉樹、斜面には灌木と全く異なる植生を持ち、これも斜面に積もった雪が動いていることの証左だそうだ。

一の倉沢出合前の広場には地形と、その生成に関するパネルが立ち、説明文には小疇先生のお名前が！パネルの前で再度氷河地形の説明。岩稜から岩壁、スラブ、モレーン、と続く地形が一目瞭然であった。雪崩による浸食だけでこの地形を作るとするならば、百万年以上もかかってしまう勘定になり、山ができる前から削り始めなければならないので説明がつかないとか。

一の倉沢を遡り、雪渓の末端に立ってもう一度地形を眺め直し、帰路に就く。最後に谷川岳資料館を見学して解散した。やはりきちんと説明できる方がいる観察会は有意義なものになるのだ、と痛感した。

越後一の寺、雲洞庵、そして巻機山へ 6月19日(日)~20日(月)

柳川しげよ

6月19日、今回目的地である清水部落に向かった。本日の宿泊先である巻機山の麓にある山の宿「雲天」その前に、明日の井戸尾根コースの登山口の確認を行う。日曜日でお天気も良いせいか駐車場はたくさん車の車であまっていた。その後、毎年「ゆく年くる年」でおなじみの雲洞庵に立ち寄る。この除夜の鐘の中継を見つつ、新年を迎えている私にとって、実際に目にするのは感動そのものであった。参拝後、雲天に向かった。明治15年に建てられた庄屋を移築した建物は、長い間風雪に絶え抜いた重さを感じた。景色も肌で感じるができる大窓、囲炉裏では、鮎が焼かれ、食卓には、次々と、山菜がならぶ、なんと美味しいこと。舌鼓を打つとはこういうことだったのかと、思う。

翌6月20日、天候曇り、雨の予報が幸運にも変わり、4時に出発。桜台駐車場へ向かう。昨日とは打って変わって平日のせいか駐車場は私達だけだった。

4時30分、登山開始。気になっていたお天気も回復傾向。これなら絶景に出会えるかと、

ただただ5時間登りつつ、9合目ニセ巻機山に到着する。ニセの名前がついた



(ニセ巻機)

由来は、やっと頂上についたかなと錯覚を起こすところ。なんとここから、頂上へは、1時間後に6名全員が到着した。「この世の楽園、黄泉の花畑、疲れた、すごいな、越後の山全てが見える、皆来ないでもったいないな。」次々と言葉が出る。牛



(巻機山山頂に到着。この後大変なことに・・・)

ケ岳には行かず、ここで昼食を摂り、下山した。

下山も同じ井戸尾根コースを辿る。ところが、ニセ頂上付近で思いがけない事が起こった。一粒冷たい雨粒を感じたとたん天気が一変した。山が怒っているかのように雨が降り出した。ここから、長い長い厳しい下山が始まった。山はこういう事だったのかと思しいらされる。つるつるの登山道を少しでも早く降りようとしても登る時に目に入った、何合目と書かれた標識さえ目に入らないほどだった。

そして4時間後やっと桜台駐車場に着いた。全員無事に下山ができ、喜びもひとしおだった。そこに、にこにこ笑顔で近づいて来られたのが、雨の中待っていた駐車場の管理人のおじさんだった。雨だから今日は駐車場料金免除か、と勝手に期待していたものだったので、越後の方は堅実だと感心した。「この昭和村は後継ぎがないんですよ。」とこぼされていた。切実な問題かもしれない。

参加者：坂上光恵 (L)、山崎完治、渡邊信一、湯下正子、川島辰雄、柳川しげよ、(敬称略)

徳本峠越えとウェストン祭

6月4日(土)~5日(日)

三田 博

北アルプスの夏山の開幕を告げる「徳本峠越えとウェストン祭」に、6月4~5日に参加してきた。島々谷から徳本峠を越えて上高地に出て、W・ウェストンの碑前祭に参加するこの恒例のイベントには、山岳会に入会した時から行ってみたいと思っていた。

上高地まで釜トンネルが開通した現在、歩く人も少ないクラシックルートだが、この日は120年以上前にウェストンが歩いた同じ道を多くの人々がたどっていく。

主催の信濃支部によるコース説明とストレッチを済ませて、午前6時にJAC山研隊はスタートした。上高地の山岳研究所まで約20キロの長丁場だ。峠越えに参加する山研隊は、山研スタッフと参加者あわせ19名、千葉支部からは私ひとりだった。

新緑の島々谷川に沿って二股までの1時間半は、ゆっくり林道歩き。その先から登山道だが、岩魚留め小屋までもずっと沢沿いの道なので急な所は少ない。山研隊スタッフが小休止と大休止をうまく配分してくれるので遅れる人はいない。力水の水場で補給して徳本峠への最後の急登300メートルを一気に登る。いいかげん疲れた頃、先着した信濃支部の人たちが峠の上から「おーい、あと少しだ」「頑張れ」と大きな声を掛けてくれる。その声に励まされて峠を登りきった。私たちの後に続いて、地元の小学校の子供たちも大勢登ってきた。徳本峠小屋では豚汁がふるまわれ、にぎやかだ。峠に立つと目の前に、明神岳や穂高の峰々が堂々とそびえている。これ



(徳本峠にて、ウェストンに想いをはせる)

がウェストンが涙した景色なのかと思うと感激もひとしおだった。

例年だと、峠からは残雪の下りだそうだが、今年は完全な夏道だった。観光客で賑わう明神に出て、小梨平キャンプ場の風呂でさっぱりした後、山岳研究所に到着したのが午後5時だった。山研での夕食と懇親会は、途中からは山岳会の小林政志会長もやって来ておおいに盛り上がった。

翌日は、今年で70回を迎えたウェストン祭に参加。式典では地元関係者が、今年から始まる「山の日」の記念会場が上高地で行われることを喜んでいて。安曇小の子供たちやエーデルワイスクラブの合唱と合奏、尾崎喜八の詩の朗読など素晴らしかった。エベレストに日本人として初登頂した山岳会元副会長の平林克敏さんの講演など盛りだくさんだった。山研委員会のスタッフには大変お世話になり、また他支部の方々とも知り合うことができてとても楽しい体験になった。



晴香園の子どもたちと山を楽しむ

香高真奈美

「大地の動き」を学んだ山歩き

岩殿山へ 5月8日(日)

快晴の大月駅。9:30に晴香園から生徒5人、引率2人、千葉支部から5人が集合して元気に歩き始めた。踏切を渡って登山口からの段を登るとまもなく、中世の城をイメージした「ふれあい館」に到着。かつてこの山にあった「岩殿城」は、武田氏やその家臣の小山田氏が、国境防備の拠点として用いた堅固な要害であった。

館周辺の岩かげからきれいな色合いのトカゲが次々に出没して子どもたちは大騒ぎ。捕まえようと追い回したりして、元気で何よりだ。

「この山は今から700万年前は海底火山だったが、海の向こうにあった伊豆半島が日本列島にぶつかってきてことで持ち上がり、現在も動いているんだよ」という三木隊長の解説に、皆びっくりしていた。その後、30分ほどの登りで634メートルの開けた山頂に到着。マウンテンクラブで山登り経験豊富な子どもたちはまだ余裕がある。お弁当の後、谷に向かって「ヤッホー！」と叫ぶと、少し間をおいて山びこが返って来た。初めての体験だ。眺めも最高で、しばらくは、襟元を合わせたような富士山や、昨年秋に登った高川山を眺め、下山。名勝「猿橋」へ向かう。途中に、ヤギの牧場のような所があり、またまた大騒ぎだ。

さて、猿橋に着いてその説明もそこそこに、子



(谷に向かいヤッホー)



岩殿城跡で元気一杯

どもたちは桂川溪谷に下り、さっさと靴を脱いで川遊びに夢中だった。水は冷たく澄んで気持ち良い。近くの崖は富士山から流れ出た玄武岩の溶岩。約9メートルの厚さがあり「柱状節理」がきれいに発達していた。それから猿橋駅まで歩き、14:50発の上り列車で帰路についた。楽しい一日だった。

参加者 晴香園7人、
千葉支部 三木雄三、湯下正子、山崎完治、
渡邊信一、香高真奈美 (敬称略)

初めての宿泊体験 (内浦山県民の森)

7月16日(土) ~17日(日)

曇天の土曜日の午後、鴨川市内にある「内浦山県民の森」に晴香園と千葉支部の仲間が集合した。芝生広場の奥にあるきれいなロッジの前庭でBBQの準備にとりかかる。子供たちも張り切って野菜を切ったりキノコのホイル焼きを用意したり・・・。焼き場でたくさんの炭に火をおこすにはおじさん達が大活躍!! センター長さんも一緒にいろいろ工夫して火をつけて良い焼き台が出来

上がった。エビ、ホンビノスガイ、野菜、お肉、ジャガイモのホイル焼きそして飯盒で炊いたご飯・どれもアツアツで美味しい。しめは「焼きマシュマロ」。大満足の夜だった。翌朝は早くから男性陣が焼き台や炭などの片づけをしてくれた。朝食に煮込みうどんをいただいて「麻綿原高原」へハイキング。標高 364 メートルのところにある妙法生寺まで虫を捕まえたり蝉の声を聞きながらゆっくりと登って一時間半。途中、道路の側溝には



(県民の森でバーベキュー)

丸い銭形模様の胴体に三角頭という特徴の「マムシ」もいて危険!!さてお寺に 11 時偶然にもその日は「中興開山会」。あじさいを植えた先代和尚さんを偲ぶため来訪者にソバ、しぼりたて牛乳、とうもろこしがふるまわれ我々もいただいた。良い日だった。7 月中旬だというのに、青色紫色のあじさいは全山満開で本当にきれいだった。

下山して再び県民の森にてスイカをいただきお開きに。けれど男の子の足がヒルにかまれて出血していることに気付く。会友でもあり森のスタッフの吉田明子さんが速やかに処置をしてくれた。

雨も降らず、楽しい夏休みの二日間になったと思う。県民の森の方々に大変お世話になり感謝いたします。

参加者：晴香園 生徒 5 名 引率 2 名

千葉支部 三木雄三、山崎完治、山田紀夫、湯下正子、柳下忠義、香高真奈美、吉田明子（敬称略）

千葉港ナイトクルージングで盛り上がる(ビールパーティー) 8月20日(土)

千葉支部恒例のビールパーティーは、千葉港の新しい埠頭からのナイトクルージングと洒落込んだ。日本列島のすぐ南の海に 3 の台風が発生して天候が心配されたが、出航の時間は運よく雨も止み、集合写真を撮り乗船。「蘇我、市原沖からコンビナートの夜景を見学」とコース案内が船中であつた。

今回は、ドリンク飲み放題に加え、「美弥和」のオーナーで会友の井上元さんが腕によりをかけて作ってくれた料理を持ち込んでの大宴会。海風に当たると料理がまた一段と美味しくビールが進む。

参加者：青木次郎、岩尾富士夫、神山良雄、香高真奈美、佐藤明夫、佐藤啓之、塩澤厚、鈴木美代、高橋琢子、土屋満、中川麻樹、能美勝博、三木雄三、柳下忠義、山口文嗣、山崎完治、山田紀夫、山本哲夫、吉野聰（敬称略）

普段顔を合わせる機会
の少ない会
員・会友と
も交流を深
め大いに盛
り上がった。
ところで実

の話、コンビナートの夜景、あまり記憶に無いのだが・・・

(吉野聰)



自然保護全国集会参加報告

7月16日(土)～17日(日)

鈴木美代

今年度の自然保護全国集会は四国高知。7月16日17日、メインテーマを「どうする！山の野生動物とのかかわり」と題して開催された。初日講演会及びグループ討議は牧野植物園での開催とあって、大いに期待して出かけた。

7月16日、朝10時牧野植物園集合。本館会議室にて、まずは各支部の活動報告から始まった。しかし、やはり四国は遠く、関東以北ではレジメに報告は載っているものの出席のない支部がままあった。牧野植物園は午後5時には退出しなければならないとあって時間的にはタイトであったが、各支部、森づくりや山の整備など、具体的な自然保護活動を地道に行っている様子がうかがわれ、千葉支部の今後の自然保護活動についても考えさせられた。



午後は、基調講演「SOS 三嶺の自然」。講師は日本山岳会四国支部会員、高知大学教授、石川慎吾氏。主なテーマはやはりシカの食害であった。しかし、近年、あちこちで人里に出没して問題となっているツキノワグマに関しては、四国ではむしろ減少が心配されているようである。絶滅させてはまずいが増えすぎても困る。まさに、どうする！である。

(写真)

ユウスゲ (左上)
フウラン(右)
牧野植物園で写す



グループ討議は4分科会にて行われた。

1 SOS 三嶺の自然

講師 石川慎吾氏

前田綾子氏 (牧野博物館研究員)

2 四国のツキノワグマは警告する

講師 山田孝樹 (NPO 四国自然科学史研究センター研究員)

3 山岳植物園 情熱の45年～オアシスの可能性

講師 山田勲氏 (四国支部会員)

4 人間とシカの自然界

講師 平井滋氏 (NPO 法人剣山クラブ)

私は、千葉県に最も関係深いと考え、4に参加した。今回は時間の関係からグループ討議というよりはミニ講演という形になった。内容は、安定的な駆除を行うためのジビエの活用が主要テーマであった。ジビエと言ってもなんでも食べられるわけではなく、捕獲方法にも制限があってけっこうハードルが高いと感じた。実際、ここでの利用率も1割程度のものであった。

会議終了後、バスで宿泊場所である工石山青少年の家に向かった。牧野植物園から1時間ほど山に入ったあたりである。懇親会はジビエのバーベキューであった。

17日のフィールドワークは、工石沢、工石山、牧野植物園、の3コースとなった。これについては、後日機会があればお話ししたい。



(高知県立牧野植物園 (同園ホームページから))

こんにちは

山歩き、街歩きを楽しみに

能美勝博



会友として山行を楽しんでまいりましたが、このたび、会員に承認いただきました能美です。

私が、山登りを始めるきっかけになったのは、3月まで勤務していた県庁のラグビー部夏山強化合宿(自称)でした。

30年ほど前の話になります。暑いのに走るのはいやだな。どこか涼しいところに行こうと誰かが言い出し、4人の仲間で、テントを担ぎ涸沢から奥穂高岳に登ることになりました。私自身は、最初はまったく気乗りせず、ザックと軽登山靴の一番安いものを買ひ揃え、雨具、軽アイゼンなどは借り物でした。その年の涸沢は雪が多く、雪上にテントを張るしかなく、寒さのため、全員夜中に起きだしました。ザックに足を突っ込んでも寒く

て寝られず、「誰だ、こんな寒いところに来るなんて言った奴は」とぶつぶつ言いながら皆で焼酎をあおりました。しかし、流れ星がひっきりなしに飛び交う星空、翌朝のモルゲンロートの美しさ、奥穂の山頂から見た槍ヶ岳の雄大さなど、山の魅力にとりつかれたのでした。その後、夏になると、その仲間たちと北アルプスの縦走路を楽しみました。しかしながら、素人集団の力任せの登山、山頂で仲間のでこぼこザックからは、パイナップルがまるごと出てきて、お前バカかなどと言いながら皆で美味しく食べたものでした。

その後、支部長の三木さんからたびたび山にお誘いいただき、千葉県内外の山歩きを楽しませていただきました。忘れられないのは、平標山、白毛門。平標では下から攻めたててくる雷に、もはや自分の人生もここまでかと真剣に観念しました。三木隊長の冷静な判断がなければ、隠れていた低い竹藪から雷の中に飛び出し、討ち死にしていたかもしれません。白毛門は、これもやはり、「誰だ、こんなきつい山に登ろうなんて言った奴は」と言いながら、都合3回も登ってしまいました。もう決して登りません。

これからも、年相応の山歩き、街歩き、宴会など、参加させていただきたいと思っています。今後とも、よろしく願いいたします。

サテライト「一木会」が発足

市川市を中心に船橋、習志野、鎌ヶ谷、八千代地域の会員・会友のサテライトが発足し、5月2日、市川市の総武線本八幡駅前の飲食店で最初の懇親会があった。休眠状態が続いていた「旧一木会」の事実上の再建。常磐線沿線の「三樹会」、総武本線と内・外房線沿線の「四水会」とあわせ、県内3つのサテライトが立ち上がった。

能美さん、安間さん、上村さんが幹事役を務める。初会合の日にはちからサテライトの名称は「一木会」。会場の飲食店は能美さんが市川学園高校に通っていた時代の友人が経営する「上喜源」。三木支部長が「サテライトの立ち上げには地域の会員の強い要望があった。一木会という止まり木が出来たことで仲間の絆が深まり、支部活動の活発化が期待できる。続けていくことが大切」とあいさつ。能美さんも「他のサテライトに所属して



いる仲間たちの参加も大歓迎。ぜひ交流してほしい」と話した。この日は重鎮の塩澤さんら14人が参加、楽しく懇談した。毎月第1木曜日に開催していく。

「復刻版 北の山の栄光と悲劇」

北海道支部支部長だった橋本幸夫さんがこのたび「復刻版 北の山の栄光と悲劇」を刊行されました。

あらゆる山の頂上を追い求めるアルピニストは、常に死と隣り合わせの世界に身を置いているその現実から目を背けずに、北の山々で起こってしまった悲劇を、膨大な資料と長年の取材をもとに綴ったノンフィクション。

四六版 354 ページ 1800 円(税別)

《問い合わせ》

白艚舎 編集部 山本哲平

TEL 011-219-1210

mail

t-yamamoto@hakurosha.com



講演会のご案内

千葉支部会員の坂上光恵さんが日山協・国際委員会主催の「第3回国際登山懇談会」で自身の豊富な海外登山や山スキーの体験について講演します。

参加自由なので千葉支部会員・会友の皆さん奮ってご参加ください。

《概要》

日時) 2016年11月17日(木)

19:00~21:00(18:00開場)

会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

演題) 「私の海外登山、山スキーの旅」

交通) 小田急線参宮橋駅下車徒歩7分

地下鉄千代田線代々木公園駅下車

(代々木公園方面4番出口)徒歩10分

空木岳に献じる詩を作れたか？

6月10日(金)～11日(土)

山田紀夫

「空木、空木、何という響きのよい優しい名前だろう。私が詩人であったなら、空木という美しい韻を畳み入れて、この山に献じる詩を作りたいところだ。」と、深田久弥が、書いた山にも憧れを持っていた。しかし、一方で何か得体の知れない怖さがこの山に感じられ一人では登れなかったところ、「支部だより」の山行案内に山本さんがメンバーを募集していたので思い切って申し込んだ。

1.出発から空木岳避難小屋まで

梅雨時ということもあり、雨が、心配だったが晴れ間を縫うような計画が功を奏した。

メンバーは、山本哲夫リーダー、三田博さんと私の3名。当日は、午後10時稲毛海岸駅前を山本さんの運転で出発、一気に中央高速を走りぬけ午前1時諏訪湖SAで3時間程仮眠。朝食は、ここで「トロロご飯」を食べる。午後6時半池山尾根駐車場着、すでに20台位の車で埋まっていた。

登山開始。トップは、リーダーの山本さん。やはり、心配していた通り私のペースより遥かに速い。三田さんは、問題なくそのペースで付いていく。歩き始め直ぐ、心拍数は150台になり、体が慣れていないせいもあり呼吸も上がり汗が一気に噴出す。直ぐにシャツを1枚脱ぎ捨て水分補給。それでも、久々の15Kのザックは、私にはこたえ、始終二人から遅れて歩くことになり持久力の無さを痛感した。

登り始めて1時間、池山小屋近くの水場は、美味しい水を飲ませてくれ登りの疲れを癒してくれた。マセナギで昼食に買ってきたすし弁当を食べるが、余りのどを通らない。この後、大地獄、小地獄とよばれる急梯子、クサリ場が続く。注意して登ればアスレチック感覚で楽しむことが出来る



(空木岳山頂は3人だけ)

のだが、今回はバテ気味で余裕は無かった。とにかく、早く小屋に着きたい気持ちだけだ。

2.空木岳避難小屋から山頂へ

避難小屋は、稜線から20分ほど下った清流の近くにあり、12時半に着いた。荷を下ろし早速、山頂を目指す。ここからの山頂の眺めは、まるでカールのようにまだ一部に雪を湛えている。そこを登るのだが、道は雪に隠され登り40分と書いてあったが、1時間20分掛かって山頂直下の駒峰ヒュッテにでる。振り返ってみると、避難小屋からの急登の道をよく登ってきたなという感じだ。

午後2時半、空木岳山頂2864mの標識前3人で写真を撮る。午後遅いせいもあり山頂には我々3人しかいなかった。山頂は風強くガスっていて周囲の山々の景色は見えづらいが、雲の合間から差し込む一瞬の光で宝剣岳、木曾駒へと続く中央アルプスの山稜そして堂々とした南駒ヶ岳や八ヶ岳連峰も見ることができた。十分に山頂を堪能し、稜線伝いに下りながら花崗岩の散乱する巨石や駒石などが目を楽しませてくれながら、午後5時避難小屋に戻る。

3.避難小屋夕食から帰宅まで

避難小屋の宿泊も我々3人だけという豪華な宿となった。さっそく、各自持参した夕食を食べながら酒を楽しんだあと、昨夜からの疲れもあり早々とシュラフに包まる。この小屋は、幽霊がでることでも有名なが、我々は朝まで一気に眠りこけた為、幽霊に会うことは出来なかった。

翌朝は昨日より日の光が明るく感じた。三田さんと起きると、山本さんが居ない。山本さんは、まだ暗い中ヘッドランプを付け朝日に輝く山容の見える場所まで登り、中央アルプスの写真などを撮っていた。ホームページなどに載っている山本さんの写真は、一枚一枚こんな苦勞をして撮られ

たものだ。

下山は、4時間程で一気に駐車場まで下る。トップは、三田さん。山本さんは写真を楽しみながら。私は、相変わらず二人の遙か後方をマイペースで・・・と各自各様の下山だった。

下山後、近くの「こぶしの湯」で汗を流し疲れを癒し、冷たいビール（帰りの運転は、三田さんでしたので、飲めませんでした。すみません。）で乾杯し昼食代わりの蕎麦を食べ帰宅の途についた。

無事に登山することが出来、また私にとっては新たな体験をした楽しい山行だった。

山本さん、三田さん「ありがとうございました」。

快晴の北アルプスパノラマ銀座縦走

7月9日(土)～13日(水)

三田芳江



(槍ヶ岳を背景に「さあ出発！」)

【7月9日】新宿発「あずさ13号」に乗り、今日は登山口に近い「有明荘」に宿泊するだけなので小旅行気分で出発。小雨が降る生憎の天気だったが、梅雨なので仕方ない。「有明荘」は食事も風呂も充実していて、明日からの長い縦走に備え英気を養った。

今回のメンバーは女性4人に男性1人。明日からはどんな山行になるかと、期待と不安に胸を膨らませ就寝。

【7月10日】予定通り8時に「有明荘」を出発。青空が見えて来て、気持ちも上がる。湯下さんを先頭に宮崎さん、私、高橋さん、吉永さんの順で列を作り、北アルプス3大急登の合戦尾根を登る。「無理せずゆっくり行こうね」と高橋さんが声を掛けてくれる。12時に「合戦小屋」に到着。高橋さんから名物のスイカをご馳走になる。「おいしかった～」。

展望もよくなり14時、「燕山荘」に到着。リュックを部屋に置いて、15時2763m 燕岳山頂に立つ。花崗岩でできた美しい山体、山肌にたくさんのコマクサが咲き、イルカ岩と360度の展望に大満足。吉永さんに遠くの山々の名前を教えて頂く。「燕山荘」名物のホルンは聴けなかったが、食後は外に出て刻々と変わる夕焼けの空と月、槍ヶ岳の風景に魅了された。日曜日だったので、宿泊客も少なめでゆったり休む。



(快晴の大天井岳山頂)

【7月11日】4時に起床、ご来光を待つ。眼下に広がる雲海と朝焼けの空の色、光を受ける槍ヶ岳、遠く富士山のシルエットを眺める贅沢な時間が持てた。今日も快晴！7時に今日の目的地、

「常念小屋」に向け出発。疲れはあるが、素

晴らしい風景を眺めながらの縦走は元気が出る。コマクサの群生に「可愛いね。こんなに風が当たる傾斜地で頑張ってるなんて健気だね」。11時半、「大天荘」に着く。空身で2922m大天井岳の山頂に向かう。山頂のあまりの景色の良さに、昼食を置いてきたのが悔やまれた。

昼食後、歩き始めるとハイマツの中にライチョウの親子を発見。ヒナ達の愛らしいこと。振り向くととどんどん小さくなって行く燕山荘の赤い小屋。歩いて来た道と進んでいく道が、見えるのが縦走の楽しさ。途中、雪渓もあり雪の上を歩くのも楽しい。16時15分、無事に常念小屋に

到着。「お疲れ様～」とビールで乾杯。今宵は1部屋に5人でギョッと雑魚寝。吉永さんと湯下さんとのトークに爆笑。そして疲れて爆睡。

【7月12日】7時半「蝶ヶ岳ヒュッテ」を目指して出発。今日も快晴！まずは目の前の美しいピラミッド型の山容の常念岳に登る。登り始めてすぐにライチョウのオスに出会った。岩場に手こずりながら9時40分2857m常念山頂に到着。ここでも360度パノラマの光景に感動。行ってみたい山々がすぐ間近に見え、心を揺さぶられる。高橋さんと「ヤッホー！」と叫んでみた。ゆっくり歩いて景色を楽しんで予定時刻を大幅に遅れて15時2664m蝶ヶ岳に、15時45分「蝶ヶ岳ヒュッテ」に到着。小雨が降ってきたので、小屋で雨の止むのを待ち16時45分2677m蝶ヶ岳山頂へ。計画にあった全ての山頂を踏むことが出来た。「やったー！」翌日の天気は雨予報だったので、雨具の準備をして早々に床に就く。

【7月13日】7時上高地に向け出発。雨の中、長い下りなので足元に注意しながら慎重に歩く。ぬかるみやブヨに邪魔されながらも予定通り、12時半上高地到着。吉永さんのおかげで「西糸屋山荘」で入浴させて頂けて、長い縦走の疲れが癒えた。今回の贅沢な大人の山旅にご一緒させて頂けて、とても良い経験ができた事に感謝しています。

参加者 高橋琢子(L)、三田芳江、宮崎美智代、湯下正子(SL)、吉永英明(敬称略)

忘年山行のお誘い

12月23日(金)に忘年山行として「房州アルプス」を歩きます。その日は、鴨川市の内浦山県民の森のログキャビンに宿泊して忘年会をします。今年一年の山歩きを振り返り、楽しく語り合いませんか。日帰りまたは内浦山県民の森に直行でも可。翌24日(土)は郡界尾根踏査を計画しています。どちらか1日だけの参加でも構いません。

宿泊者は宿の手配上、申し込みを10月31日までにお願いします。(16ページ参照)

申込先 三田 博

「山の日」記念“親子で楽しむ山登り”

富山ハイキングサポートスタッフ募集

期日 平成28年12月11日(日)

主催 茂原市子どもセンター

協力 日本山岳会千葉支部

概要 小学3年以上中学生以下の親子20組(40名)の富山ハイキングのサポート。(募集人員 5名)

問合せ先 高橋琢子

千葉県内一等三角点探訪記 2

山口文嗣

I 鹿野山 (かのうざん) 標高 352.39m

鹿野山は東西に長く、西側の春日峰から神野寺裏の熊野峰を経て、東側の白鳥峰まで約 2 km ある。最高峰は白鳥峰で標高は 379m である。白鳥峰の頂上には日本武尊と弟橘媛を祭る白鳥神社がある。熊野峰は神野寺の社寺林のため現在入山禁止になっている。

一等三角点は西側の春日峰にあり、国土地理院鹿野山測地観測所の敷地内にある。

また鹿野山マザー牧場のある所は鹿野山の西側嶺続きの鬼涙山きみなだやまという別の山である。

内房線佐貫町駅より神野寺行きバスで約 20 分、測地観測所下車。バス停前の春日神社の赤い鳥居をくぐり、5 分ほどで測地観測所の裏に出る。観測所の敷地内なので、事務所に断ってから見学すると良い。

三角点名	鹿野山 (かのうざん)	山名	鹿野山 (春日峰)
設置場所	山頂・測地観測所敷地内		
保存状態	良好。廻りをコンクリートで囲ってある。 (平成 23 年 4 月 24 日他訪)		



鹿野山一等三角点

II 峯岡 (みねおか) 標高 334.68m

峯岡一等三角点は嶺岡山系の嶺岡浅間の頂上にある。嶺岡浅間はかつては嶺岡山系の雄峰であったが、山砂採取のため北側が削り取られてしまっている。昔の地図によると削られた所の標高は現在より高く、360.8m となっている。三角点も移設されたようである。

峰岡中央林道 2 号線 (鴨川市太海の国道 128 号嶺岡トンネル付近から酪農のさと付近まで) の嶺岡浅間付近、標高が一番高そうな所から山道へ入り 5 分ほどで浅間神社の石の鳥居がある。石段の奥に祠が祭ってある所が嶺岡浅間の山頂で、祠の左斜め後ろに三角点が設置されている。長狭街道の主基バス停からは、白滝不動経由で 1 時間 30 分の登りで到着する。

嶺岡浅間の東 500m ほどの林道沿いにはパラグライダーのゲレンデがある。北側が削り取られているため格好のテイクオフポイントとなっている。そのために北側の安房高山から三郡山にかけての房総分水嶺尾根の眺めも良い。

三角点名	峯岡 (みねおか)	山名	嶺岡浅間
設置場所	山頂・神社境内		
保存状態	良好。廻りをコンクリートで囲ってある。 (平成 25 年 9 月 27 日他訪)		



主基から望む嶺岡浅間

お知らせ

会員の動向(2016.8.21 現在)

- 新入会員 M.Mさん 会員番号 16011
- T.Aさん 会員番号 15795
- 新入会友 K.Aさん
- A.Yさん
- I.Cさん

創立 10 周年記念海外山行

カムチャッカ アバチャ山登頂 2017年7月下旬～8月上旬 5日間(予定)
来年度のチャーター便日程等が11月に判明、それを受けて詳細についてお知らせします。

役員会の報告

6月報告 6月21日(火) 市川アイリンク (出席者:敬称略、五十音順)

出席者 鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 10名

◎協議事項

- ・「山の日」制定記念山岳映画鑑賞会について
9月10日(土) 市川グリーンスタジオ 役割分担について
- ・10周年事業について
記念式典の会場 (候補の選定)、記念グッズの検討 (トートバッグ、Tシャツ)
- ・海外山行について 2017年7月 カムチャッカ (詳細検討中)

7月報告 7月19日(火) 市川アイリンク

出席者 叶谷、坂上、鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 12名

◎協議事項

- ・「山の日」制定記念山岳映画鑑賞会について 役割再確認、7.30 試写会 (スタッフ対象)
- ・10周年事業について 日程 来年8月後半から9月前半 参加費 8000円

8月報告 8月16日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、山口、山田、山本、吉野 8名

◎協議事項

- ・山の日(8月11日) 県民ハイキング(伊予ヶ岳)の実施報告
- ・山の日記念事業(映画会、親子ハイキング)の進捗確認
- ・支部だより 36号(9月号)発行について

山 行 の 予 定

(9月24日以降、支部行事等含)

行 き 先	日 程	申 込 先	締 切	備 考
日和田山・物見山	9.24 (土)	山口文嗣 支部だより参照	9.17 (土)	ヒガンバナの咲く巾着田から物見山へ
百蔵山	10.1 (土)	湯下正子 支部だより参照	9.24(土)	公益事業 晴香園
市川散歩	10.8 (土)	能美勝博 支部だより参照	9.24(土)	市川の歴史散歩 中山法華経寺・ 行徳成田街道 ガイド付き
瑞牆山・金峰山	10.15 (土) ～10.16 (日)	山口文嗣 支部だより参照	10.2 (日)	富士見平小屋に泊まり百名山2山に登る
本社ヶ丸山・三ツ峠山	11.12 (土)	山本哲夫 支部だより参照	11.7(月)	笹子駅-三ツ峠駅、歩行7時間
郡界尾根第10回 第11回	11.5 (土) 11.26 (土)	山口文嗣 支部だより参照	10.29 (土) 11.19 (土)	郡界尾根再開。 木之根峠東より元清澄山をめざします
年次晩餐会	12.3 (土)	J A Cへ直接		京王 プラザホテル
陣馬山	12.17 (土)	湯下正子 支部だより参照	12.10(土)	公益事業 晴香園
忘年山行・房州アルプス	12.23 (金)	三田 博 支部だより参照	10.31 (月)	宿泊、忘年会等 13 ページを参照
郡界尾根第12回	12.24 (土)	三田 博 支部だより参照	10.31 (月)	内浦山県民の森 ログキャビンに前泊条件

印刷

三陽メディア株式会社